

認知症？ 年相応？

もの忘れには、正常なものと認知症をうたがえるものがあります。加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違いの区別ができればよいのですが、難しいとされています。全てではありませんが、認知症に気づくためには、次のようなサインが役立つと言われています。

・もの忘れの為に日常生活に支障をきたしているか

自分の経験した出来事を忘れる、大事な約束を忘れるなどの場合は認知症のサインかもしれません。

・本人が忘れっぽくなったことを自覚できなくなっているか

もの忘れをしていることに気づけなくなり、話の中でつじつまを合わせようとするものがあれば認知症のサインかもしれません。

・もの忘れの範囲は全体か

経験全体を忘れるのは認知症のサインかもしれません。

ほか具体例：運転が粗くなった、怒りっぽくなった、趣味に興味を示さなくなった etc



認知症に早期に気づき、対応することは、適切な医療や介護サービス・福祉サービスへのつなぎとなります。また、本人や家族の不安・混乱・戸惑いの期間を短くすることにも大いに有効です。

各都道府県には、認知症の人に対する鑑別診断や専門医療相談等の役割を担う認知症疾患医療センター等の専門機関が整備されています。さらに、認知症が疑われる方であって介護サービスの利用を本人が希望しない等の理由により適切な医療・介護サービス等につながない場合には、各市町村に、複数の専門職が、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価を行った上で、家族支援等の初期の支援を包括的・集中的に行う「認知症初期集中支援チーム」が設置されています。石川県では当院の隣にあります地域包括支援センターありまつを含め、県内 19 市町の地域包括支援センター等に配置されています。